

biš yangiya šaču baliy-ta ötig

Yilip bitidim kinki körgü bolzun tip

此の冊子 (čäysi) は余チュケル・テミュルのものなり。一部分のみ余が書き成したり。

余トング・ブクハ……敬請

善哉、善哉、幸なる猿の年第二〔月〕

五日、沙州城に於て祈願

して余が書きたり。後に……に成れとて。

Ch. XIX, 001^a 第十一枚裏五行目

tükäl tämür tu Yi-a čisindim. Yoin yil onunč ai biš otuzya šaču baliy-ta 善哉

餘チュケル・テミュル……拔萃せり。羊の年第十月二十五日、沙州城に於て

此の如く此の回鶻譯の俱舍論實義疏は、チュケル・テミュルといふ人の藏したもので、沙州 (šaču) 即ち敦煌に於て、一部分は自分で、一部分はトング・ブクハといふ人の書寫したものである。Ch. XIX, 001 即ち第一卷は龍の年、001^a は羊及び猿の年に書かれて居る。此等の龍・羊・猿の年を、如何なる順序に數へるべきかは充分明かではないが、多分龍の年の第一卷の書寫に始まり、羊・猿等は之と一續きの十二年中に配當すべきであらう。002^a は此の種の識語は見えないが、第一卷より順次序を追うて書いたものであらうから、その書寫は龍の年以後、羊の年迄の間に在つたものと見なければならぬ。